

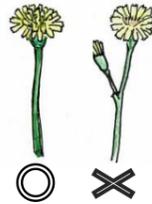
タンポポの特徴と滋賀県の生育種

タンポポの2つの特徴

1. 一つの茎（花茎）には、一つの花（頭花）のみ

茎が途中で分かれて、その先に別の花をつけることはありません。

*小さな花が集まって、一つの花のように見えるものを**頭花**といいます。



2. 葉は地面に沿って広がる

葉は、地面を放射状に広がる**ロゼット葉**です。ただ、周囲の草が伸びてくると、光を受けようとして、葉先が立ち上がってくる場合があります。

滋賀県で見られる8種のタンポポ

花は白色～淡いクリーム色



シロバナタンポポ

- ・大型 (3.5～5 cm位)
- ・白色
- ・やや開く
- ・内片の半分以上 (6割くらい)
- ・大きな角あり
- ・茶褐色
- ・2月下旬～5月中旬頃
- ・茎が長くなる

- 花の直径 —
- 花の色 —
- 総苞外片の向き —
- 総苞外片の長さ —
- 角(つの) —
- タネの色 —
- 花の時期 —
- その他の特徴 —

キビシロタンポポ

- ・やや小型 (3～4 cm位)
- ・淡いクリーム色 (特に中心部)
- ・内片にくっつく (やや開くことも)
- ・内片の半分くらい
- ・ほとんどなし (小さい角があることも)
- ・黒褐色
- ・3月～5月中旬頃
- ・甲賀市でよく見られている



季節が進むと、花の黄色は薄らぎます

花は黄色

黄花の種別写真と説明を、総苞外片が上を向いているグループ（在来種）と下を向いているグループ（外来種）に分けて示しています。

なお、総苞外片が横や斜め下に向いているものは、雑種の可能性が高いです。

総苞外片が上向き 【在来種】



カンサイタンポポ

セイタカタンポポ

ケンサキタンポポ

トウカイトンポポ

花直径	・小型 (2～3 cm)	・大型 (4～5 cm位)	・大型 (4～5 cm位)	・大型 (4～5 cm位)
外片の向き	・内片にくっつく	・内片にくっつく (やや開くものも)	・内片にくっつく (やや開くものも)	・内片にくっつくか、やや開く
外片と内片の長さの比	・内片の半分以下 (1/3くらい)	・半分程度 (半分弱)	・半分程度 (半分強)	・半分以上 (2/3くらい)
角(つの)	・なし (あっても1mm以下)	・なし (小さい角があるものも)	・2mm以上の大きな角	・2mm以上の大きな角
花粉サイズ	・均一	・均一	・バラバラ	・均一
花の時期	・3月中旬～5月	・4月中旬～5月中旬頃		
他の特徴	・小花の数が少ない	・茎が太く長くなる		・長い外片と大きな角
県内分布	・広く分布するが、県の南西部に多く、北東部には少ない	・県全体に見られるが、県北部～県東部に多い	・県北部に散らばって見られる程度	・東海地方に分布 南湖の東岸域に点在

*ケンサキタンポポとトウカイトンポポの分布域および花の時期は、あまりはっきりしていません。

総苞外片が下向き 【外来種】



外来種にはセイヨウタンポポとアカミタンポポの2種があります。ともに、花粉サイズはバラバラで、在来種に比べて総苞の緑色が濃い特徴があります。

この2種は、タネの色で区別できます。



セイヨウタンポポ

- ・タネの色は茶褐色
- ・花直径は3～4 cm位
- ・花は主に2月～6月



アカミタンポポ

- ・タネの色は赤褐色
- ・花直径は3 cm位
- ・乾燥した場所に生育？

*花が咲く時期は、地域や場所によって、また年によっても変わります

写真および図は全て前田雅子が撮影、作図